

令和元年度標準採血法検討委員会報告

Committee Report on the Standard Procedure for the Blood Collection in 2019

渡邊 卓 (JCCLS 標準採血法検討委員会委員長、杏林大学医学部教授)

大西 宏明 (JCCLS 標準採血法検討委員会副委員長、杏林大学医学部教授)

Takashi Watanabe (Chairperson of JCCLS Committee on the Standard Procedure for the Blood Collection, Professor, Kyorin University School of Medicine)

Hiroaki Ohnishi (Vice-Chairperson of JCCLS Committee on the Standard Procedure for the Blood Collection, Professor, Kyorin University School of Medicine)

委員 (五十音順、敬称略)

雨宮みち、大西宏明、川合陽子、高木博規、
谷口嘉朗、千葉正志、東克己、米山彰子、
渡邊卓

オブザーバー：駒井信子、渡辺清明

標準採血法検討委員会では、平成 31 年 3 月に標準採血法ガイドライン改訂第 3 版 (GP4-A3)を発行した。

1. 標準採血法ガイドライン改訂のポイント

新ガイドラインでは、いくつかの重要な部分について改訂がなされている。特に、採血法の選択については新たに章を設けて詳述し、ホルダー採血法を標準採血法と位置付けること、神経損傷予防における翼状針のメリットや、注射器採血法における針刺しのリスクと適切な分注法について記載を充実させている。一方、採血法の標準化において安全性と同様に重要な課題である測定値の正確性の担保のために、補遺として新たに「採血手技が血液検査の測定値に与える影響」について記載している。

また、本文中にも図表を多く使用し、ガイドラインを視覚的により分かりやすいも

のとした。巻末の文献情報も大幅に増加させ、採血法に関する種々の情報を入手するための手引きとしても充実したものとなっている。

改訂から丸 1 年が経過したが、現在のところ JCCLS で把握する限り、改訂ガイドラインに関して重大な指摘や疑問は投げかけられておらず、改訂ガイドラインは各方面において概ね受け入れられていると考えている。

2. ポケット版の作成について

過去の委員会では、技師や看護師個人へのガイドラインの普及のために、内容のエッセンスを抜粋したポケット版を別途作成することが提案されている。令和 2 年度以降の課題として、引き続き検討を行っていく予定である。